

授業科目	社会福祉調査特講 Research Method for Social Welfare			担当教員	大島 啓		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>実践的・規範的な性格をもつ社会福祉領域の研究は、たとえば各種社会福祉施設・機関の利用者、生活困窮者、特定の地域社会の住民など、現実社会の人々の生活や諸課題に根ざしており、それらの存在を抜きにして研究を進めることはできない。そうした人々（や地域）の生活実態や意識を知ったり、福祉的課題を掘り起こしたり、解決策を探ったりするための方法が社会福祉調査であるのだが、その方法が正確で的確（信頼性が高く科学的）でなければ、効果的な支援・解決には決して結びつかない。本講義では、社会福祉領域での調査（研究）を進めるにあたって身につけておくべき社会調査の考え方・手法・具体的手順等を学ぶことにより、社会福祉を科学的に捉える視点を獲得することを目指す。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	社会福祉領域の研究で用いられる様々な研究手法の特徴等について討議することができる。			・参加姿勢 ・授業での受け答え	20%		
思考・判断	社会の福祉的な課題を科学的に見る視点が身についている。			・課題レポート ・授業での受け答え	50%		
技能・表現							
知識・理解	社会調査の基礎的な知識・概念を説明することができる。			・課題レポート	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「参加姿勢」は、授業への取り組み姿勢を評価する。「授業での受け答え」は、テーマごとの討議や質疑における受け答えを評価する。「課題レポート」は、各回の講義において随時課した課題を評価する。</p>							
授業の概要							
<p>本講義では、“科学”という認識方法の諸特徴を踏まえた上で、社会福祉領域で用いられる様々な研究手法の概要と、それらのメリット・デメリットを学ぶ。特に論文等を講読しながら各方法を具体的に理解することを通して、社会福祉を科学的に捉える基礎的な視点を身に付け、各自の研究に役立ててもらいたい。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：指定教科書なし。課題シートを配布する。 参考書：轟亮・杉野勇編（2010）『入門・社会調査法』法律文化社。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①人々の幸せを願う「温かい」心と、客観的な調査や認識（時に「冷たい」とも言われる）は、決して矛盾するものではないことを学んで欲しい。 ②“科学的”な認識は、人間の特定の認識から生み出され洗練されてきたものであり、それゆえ限界も有している。しかし人々の幸福に資するための方法を模索する際に、科学的な根拠や判断は非常に大切であり、かつ効果的でもある。厳密に“科学的”であろうとすることがどれほど難しいかを知り、しかしそれでも“科学的”であろうとする態度を身につけてもらいたいと願っている。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	イントロダクション	講義概要の説明、講義スケジュールの確認、用いる文献の決定等。	復習: 文献を自身で選定する。
2	科学的研究とは(1)	研究の目的と方法の関係性について学び、調査の意義や役割について理解する。	復習: 配布した課題シートに基づき、研究の目的と方法の関係性について考える。
3	科学的研究とは(2)	理論とデータの関係性について学び、研究の役割や位置づけについて知る。	復習: 配布した課題シートに基づき、調査結果からどのように理論が構築されていくのかについて考える。
4	科学的研究とは(3)	先行研究の意義について学び、先行研究と自身の研究の関係性について理解する。	復習: 復習: 配布した課題シートに基づき、先行研究の役割や位置づけについて考える。
5	科学的研究とは(4)	普遍性・特殊性、反証可能性について学び、科学的認識について理解する。	復習: 配布した課題シートに基づき、科学的認識の特徴について考える。
6	科学的研究とは(5)	仮説と調査の関係性について学び、仮説設定の方法について知る。	復習: 配布した課題シートに基づき、仮説と調査の結果得られたデータの関係性について考える。
7	科学的研究とは(6)	2~6 回までの講義内容を振り返ることにより、社会福祉を科学的に見る視点が身についたかどうかを確認する。	予習: 2~6 回の課題シートの振り返りを再度行う。
8	方法検討(1) —計量的調査	計量調査の概要を学び、そのメリット・デメリットを知る。	予習: 統計的推測について調べてくる。
9	方法検討(2) —変数間の関連	変数の種類と分析方法、相関係数、クロス表の作成について理解する。	復習: 母集団、全数調査、標本調査、標本誤差、代表性、統計的有意性等の概念について学ぶ。
10	方法検討(3) —サンプリング	全数調査と標本調査の違い、無作為抽出法について学ぶ。	予習: 指定された論文を事前に読んでくる。
11	方法検討(4) —対象者の選び方	全数調査をした論文と、標本調査をした論文とを比較し、それぞれの結論の適用範囲の違いについて学ぶ。	復習: 全数調査と標本調査の違いについてまとめる。
12	方法検討(5) —質的調査①	質的調査の概要を学び、そのメリット・デメリットを知る。	予習: 指定された論文を事前に読んでくる。
13	方法検討(6) —質的調査②	観察法や面接法等の類別、データの記録方法、データの整理・入力方法等について学ぶ。	復習: 観察法や面接法等の類別、データの記録方法、データの整理・入力方法等について、課題レポートを提出する。
14	方法検討(7) —事例分析	事例分析の概要を学び、そのメリット・デメリットを知る。	予習: 事例分析に関する指定論文を事前に読んでくる。
15	方法検討(8) —比較分析	比較分析の概要を学び、そのメリット・デメリットを知る。	予習: 比較分析に関する指定論文を事前に読んでくる。